



夕刊 十一月十九日 行

童話 上機嫌

老下僕の手紙... 燕坂 蝶

「私がまじりましたのは上官の命令です。皇帝陛下のやうに直立してゐる若者に在否を確かめて来いと云はれられたので、けれども私は他の人達のやうに犬のやうな探偵はしなかつたのです。それでこの部屋へ失禮をまかり見す訪ねて参りました。私の任務はすてにすんでゐます。私は皇帝陛下は確かに居られますと報告致しませう...」

新妻久満男選

秋野 夕 雀

山道にふれたるものかそくも、さやりのふをばきよとめけり
○岩つてに手折れるくみのすつばに、かめば朱なるつばはきにけり
○清くも朱しただれるくみの實の、そのすつばは初戀に似て
○すつき想の枯れてそよが、青山の白々またたく星にてあらむか
○嶺に立てば氷山のごとき雲のうく、かめば霜のごとつたからむ

死の体験

大竹 秋平

私の若い時によく死にたいと私は云つた。私は單に文學的にのみでなく、嚴肅な態度でそれをもつて語つた。當時の私の友人達は、な不安を私に感じました。又それ等の人のなかで、私が決行するであらうと待ち設けて、遂々自殺したか...惜しいことをしたね」

にはよから士からコホロギボンと出るほんのりあまいのだからコホロギ月光を吸つて見る月光は、まぶいものだからコホロギ角をよつて見る月夜は嬉しいものだからコホロギ唄を歌つて

中作漁港 珠雲 小野務平
水産由來富郷 同心上下自強長 拓開漁港漁市 民庶百年多福慶

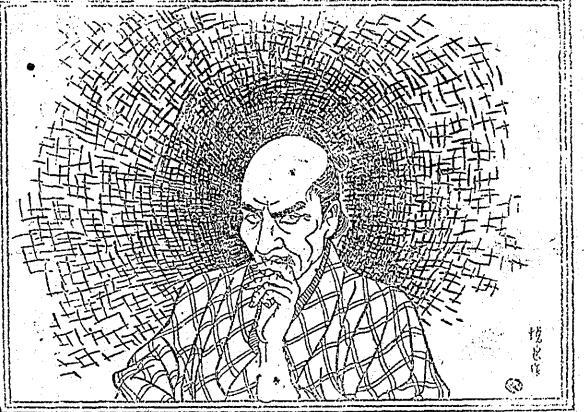
潮聲観静抄帳 赤蜻蛉群れと庭の夕日影 長貴
雨風の夜を鳴く土間のちろ虫 石城
刈りのこす山田に暮れし稲雀 茂堂
夏井川海とびかへて鮎とびぬ 藍子
啄木鳥を夕暮こむる山の町 水明
一と村は水につかりぬ雁の聲 文狂
路地にはむ千傘や赤とんぼ 雀始とるらし鳥の來て

黄金魔刃 高桑義生作 樋口悦也書
(8) 樋口悦也書
夜光の土圭 (八)
時計が日本にわたつたのは天文年間といふ事だ。家康も時計を一つもつてゐた。寛永になると日本で

黄金魔刃

高桑義生作 樋口悦也書

十二月の雑誌を手にして、東左衛門が田沼に献上するはずの土圭は、この間も、早く見たいと矢張り、精巧華麗な装に折らぬお守りをつけて献上した。精巧華麗な装に折らぬお守りをつけて献上した。精巧華麗な装に折らぬお守りをつけて献上した。



時計師が出た、殊に長崎には名手があつた。その頃のふ事だ。しかし、この夜光の天賦の性質を生かす計、枕時計、押時計、管時計などの名種がある。東左衛門は言葉をつつた

宮温湯

お寒くなりました。冷たいお方はサウお困りでございませう。アタタメアス。召し上るお教はれます。性の御方、下腹や腰等引きつり痛む方、子宮のお悪い方、なが血、白血で困りの方、月経時に痛みを感る方、子寶のほしい方は是非御試下さい。

冬のサロ

暖房設備が出来ました。御家庭の延長として是非御利用下さいませ

勉強ノ店

建築美品 床柱、天井板、ベニア板 新入荷品、秋田杉四分板、山川印優品、建具材

旅行には

素晴らしい乗心地の！ 三五年式流線型新車を!!! 是非御利用御命の程を御願申します。

三井タクシー

電話六八五番

産科 婦人科 花柳病科

午前午後 午後夜診 入院 應需 井坂 醫院

友部株式商店

現物買付 友部株式商店 電話一七七七

日本姓名學會東北支部長 鴉沼孝昌

平町紺屋町三六

上田醫院

病室完備 電話二一九

耳鼻咽喉科専門

平町田町(電六九一) 山内醫院

西村屋薬舗

百薬品 藥劑士 鈴木 堅助

産科 婦人科 外科

院長 木村寅次郎 醫學博士 内木宗八

木村病院

入院隨意 病室完備 電話一六四

開彰商店

本店 水戸線下宿驛前 電話五五九

